

研究報告

## キョロロ周辺のヤマグワに集まるウリハムシ

鈴木誠治<sup>1)</sup>・富塚茂和<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 昆虫はかせネットワーク,

<sup>2)</sup> 十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ

(2021年12月25日受付; 2022年3月16日受理)

### *Aulacophora femoralis*apan aggregation on the mulberry around the building of 'Kyororo'

Seizi SUZUKI<sup>1)</sup>, Shigekazu TOMIZUKA<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> Konchuhakase Network,

<sup>2)</sup> Echigo-Matsunoyama Museum of Natural Science 'Kyororo'

### はじめに

ウリハムシ *Aulacophora indica* (Gmelin, 1790) はウリ科植物を広く食害し、キュウリやカボチャの害虫として知られる。成虫はフジ、ナデシコなどにもみられるが(木本・滝沢 1994)、これまでにクワ類を食害するという報告例はない。

「森の学校」キョロロの南東側外壁の窓周辺には秋期に多くのウリハムシが集合する。そのウリハムシがどこから来て、どこに集まるのか疑問に思い調べたところ、キョロロ入り口付近のヤマグワ *Morus australis* Poir.に大量に集まっていた(図1)。



図 1. ヤマグワの葉に集まったウリハムシ。

2020年9月から10月にかけてのウリハムシの集まった時期と場所について報告する。

### 調査地と方法

2020年の9月19日, 9月26日, 10月4日, 10月12日, 10月27日の計5回, 図2に示したa-hの8カ所のヤマグワの若木上のウリハムシの個体数を目視にてカウントした。同時にキョロロの周辺に自生する草本(ススキ, ヨモギ, トダシバ, ムラサキツメクサ, フキ)と美人林周辺の畑地で栽培されていたカボチャ類 *Cucurbita* spp. 上のウリハムシの個体数もカウントした。ただし畑地のカボチャは10月4日のカウント時に、地点a, f, g, hのヤマグワは10月27日のカウント時には刈り払われていたのでカウントを打ち切った。

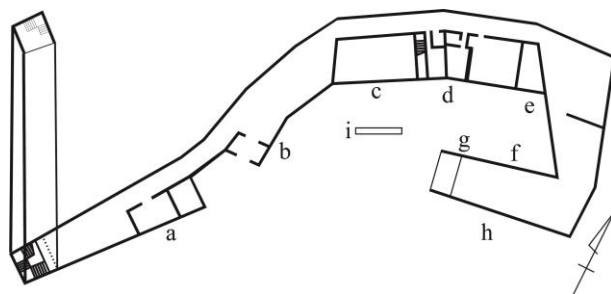


図 2. 調査を行った地点の分布。

## 結果と考察

畑地のカボチャには9月19日に6個体、9月26日に7個体が確認できた。一方でキョロロ周辺のヤマグワ上には計289個体を確認した。特に多かったのは地点b、地点cのヤマグワで、全体の89%を占めた（図3）。ウリハムシはカウント中に飛び立ってしまうためこの個体数は過小推定になっていると思われるが、それでも近隣の食草の一つであるカボチャに比べ高密度であった。地点c周辺のススキやヨモギ上で10月4日に計30匹、10月12日に計20匹を確認したが、元からそこにとまっていたものか、ヤマグワ上の個体をカウント中に飛び立ってとまっていたかとは不明であった。10月27日には地点cの南東に建てられた大型の写真展示パネル（図2i）に18匹のウリハムシを確認できた。

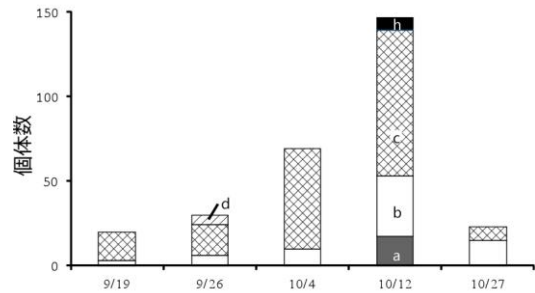


図3. ウリハムシの個体数変化と地点. 縦軸は葉上のウリハムシ個体数. アルファベットは図2参照.

ウリハムシが集合していたヤマグワの葉に食痕は無く、ウリハムシに飼育下でヤマグワの葉を与えてもその葉を食べることはなかった（富塚，未発表）。木本・滝沢（1994）にもヤマグワ上で見られるという記載はない。沖縄県のクワ畑においてウリハムシが確認された事例はあるものの、そこにおいてもクワの食害は確認されていなかった（東・金城 1981）。ウリハムシは食草としてヤマグワに集合していたのではなく、季節的に越冬場所として集まってきた可能性がある。ウリハムシは成虫で越冬し、越冬前の約1カ月間に越冬場所付近の灌木の葉裏などに集合することが知られている（池本 1958）。キョロロの建物の周辺では地点bと地点cは日当たりがよく、昆虫の越冬場所として適しているのかもしれない。しかしもっと日当たりがよさそうな展示パネル（図2i）上の個体数はヤマグワより少なく、越冬場所自体も未確認である。なぜ大量に集まる場所がヤマグワなのか、という疑問が残るので、今後も調査を行いたい。

## 引用文献

- 東清二・金城政勝（1981）沖縄におけるクワ害虫と桑園の昆虫群集. *沖縄農業* 17：7-15.
- 池本始（1958）ウリハムシの水分および脂質含有量の季節的变化. *日本応用動物昆虫学会誌* 2：119-122.
- 木本新作・滝沢春雄（1994）日本産ハムシ類・幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版会，東京.